

群馬県議会 フォーラム群馬

vol.3

後藤かつみ

県議会だより

平成18年度決算審査が終了

全国トップクラスの健全財政を維持

11月15日に平成18年度の決算審査が終了し、群馬県においては実質公債費比率が全国2位となるなど、引き続き健



フォーラム群馬が知事に新年度予算要望書を提出

財政再建優先を強く主張

全財政を維持していることが明らかになりました。しかし、県債残高は減少に転じたとはいえ、依然として1兆円近くに上る状況です。子どもたちの世代にこれ以上の負担を残さないためにも、一層の健全化努力が求められます。

今後の見通しは不透明

しかし、知事が交代した9月議会以降、議会では与党議員から「プライマリーバランス黒字堅持の公約にこだわる必要はない」「借金をしてでも公共事業予算を増やすべき

だ」といった歳出増を求める声が鳴り止みません。このような声に対し、大澤新知事がどれだけ毅然とした態度で臨めるかは不透明な状況です。

後藤かつみは、議会の中で「今、優先すべきは財政再建であり、これ以上次世代に負担を残してはならない」と強く主張しました【3面参照】。

主な財政指標の状況

- 県債残高** (県の借金の残高)
9,592億円 (43年ぶりに減少)
- プライマリーバランス**
(黒字=借金を増やさずに財政運営ができていることを示す)
370億円の黒字
- 積立基金残高** (将来の不測の事態等に備えた貯金)
463億円 (26億円増)
- 実質公債費比率**
(県債の返済による財政負担の度合いを表す指標)
10.2% (全国2位)
- 経常収支比率**
(財政に「ゆとり」があることを示す指標。低いほど良い。)
92.3% (ほぼ全国並み)

12月定例議会の主な動き

公共事業

八ツ場ダム工期延長 水没住民の支援策強化

八ツ場ダム(長野原町)の工期が5年延期され、完成時期が2015年となったことに伴い、川原湯温泉街などの水没地区住民の生活再建が大きく遅れることが懸念されています。

これを受け、水没地域への支援策を求めた角倉邦良議員(4面写真の一番左)の質問に対し、県は、温泉施設改修費への利子補給などの支援策を行うと回答しました。

議会改革

前橋市議の政務調査費 1円以上から領収書添付

前橋市議会は、議員の調査研究費として支給される政務調査費について「1円以上」



から領収書添付を義務づける条例案を可決しました。

群馬県議会では、後藤かつみなど若手議員の主張が受け入れられず、「1万円以上の支出」となっていますが、県都の動きが県議会での抜本改革を後押ししそうです。

議会改革

委員会議事録のHP公開 を巡り議論分かれる

議会改革検討委員会において、現在非公開となっている委員会の議事録をHPで公開するか否かが議論されました。

現在、群馬県は本会議のみ公開ですが、「開かれた議会」を目指すために委員会も公開すべきという主張に対し、自民党が「費用対効果から疑問」と反対したため議論がまとまらず、結論は持ち越しとなりました。しかし、全国的には38都道府県が既に実施しており、公開は当然の流れと言えます。

行 革

県民局の見直しを検討

県民局は、地域事務所同士の横の連携や、地域のことは地域で意思決定できる行政を目指し、平成17年度から県内5地域(中部、

西部、東部、沼田、吾妻)に各地域事務所を束ねる形で設置されています。

しかし、県当局は、「横の連携にこだわった結果、事務の効率性が損なわれた」として、従来の「縦割り組織」に戻していく方向で見直しを検討していることを明らかにしました。

「縦割りの弊害」を打破すべく、鳴り物入りで導入された県民局ですが、わずか3年で方針転換することになりそうです。



警察学校の訓練状況を視察調査(右が後藤)

委員会でも積極的に提言

文教警察常任委員会

(教育・治安の問題について審議する委員会)

空き駐在所対策

後藤

駐在所の警官について、「一生懸命パトロールしていただき有り難い」と感謝する声がある反面、「いつ行っても居ない」との声も聞く。

現在、交番に限定されている交番相談員(※1)を駐在所にも配置可能にするなどの対策を。

県警

勤務員の複数化や隣接交番やパト



食育の推進

後藤

食育を推進するための中核として、栄養教諭(※2)の役割が重要となるが、本県は取り組みに消極的。計画的な配置を行ってほしい。

県教委

今年度は6名配置した。今後の配置については、この6名の成果、課題を検証のうえ検討したい。

決算・行財政改革特別委員会

(決算と行財政改革について審議する委員会)

指定管理者制度(※3)

後藤

ぐんまフラワーパークにおいて、経費縮減の代償として、サービスの低下や不払い残業などのコンプライアンス違反が表

財政健全化

後藤

本県は、順調に財政健全化が進んでいる。このことに対し、「公共事業等を削って県民に我慢を強いている」という批判もあるが、私は「将来世代にこれ以上の負担を残さない」という命題を最優先しなければならぬと考えるがどうか?

知事

財政の健全化は、群馬県を未来に向けて大きく羽ばたかせるためには必要である。しかし、三位一体の改革により地方交付税等の歳入源が削減される中で、歳出削減を重ねることに「これでいいのか」という思いもある。

地方交付税の復元を全国知事会として取り組み、また、産業基盤を強化して税収増に努めることで歳入確保を図っていきたい。

用語の解説

※1 交番相談員

空き交番対策として、警察OB等を配置し、事務仕事や住民からの相談対応等に従事する制度。

※2 栄養教諭

「食育指導」と「給食管理」を一体に行う(例: 地場産物を活用した給食による食育指導)。

新たに採用するのではなく、給食管理をしていた栄養士を「栄養教諭」に配置し直すのが一般的。

全国では、新潟県、兵庫県などが栄養士全員を配置している。

※3 指定管理者制度

公園などの公共施設の管理を民間企業やNPO等に代行させる制度。

「官から民へ」の小泉改革の柱として05年度から導入されているが、「ぐんまフラワーパーク」を管理する民間業者が違法行為等による不祥事を繰り返すなど、問題が続出している。

ハツ場ダム計画予定地(長野原町)

若手議員有志で現地を調査

問題の深刻さを 改めて認識

11月7日に、後藤かつみ他若手県議7名、市議2名が有志でハツ場ダムの建設計画地を調査しました。

地盤が脆弱で建設には不適地であることや、吾妻峡を水没させてまで建設する必要性に乏しいことなど、改めて計画の矛盾を認識しました。



現地住民の説明を聞く調査団(左3人目が後藤)

また、長年ダム計画に翻弄され続けてきた現地住民の声を聞く中で、何よりも現地住民の救済を最優先に行わなければならないことを全員が確認しました。

県議会にも新しい動き

これまで、群馬県議会においては「タブー」の問題として敬遠され続けてきた「ダム問題」に対し、

真剣に取り組みようという動きが若手議員を中心に拡がりつつあります。今回の視察を始め、有識者や県執行部を招いた学習会を積み重ね、議会でも積極的に問題提起する中で、県執行部の対応にも少しずつ変化が見られつつあります【2面参照】。



フォーラム群馬の皆さんと
左から 塚原 仁、塚越紀一、黒沢孝行、大沢幸一、後藤かつみ

皆様の声を
お寄せください！

田中正造翁に憧れ、「民の心」を忘れず、「信念」を貫き通す人間になりたい、と政治の道を志しました。

初当選以来、「県民に身近な県政を創る」という理想を胸に、日々訴え続けています。

皆様のご声援、ご意見を心よりお待ちしております。

県民に身近な県政を創る
後藤かつみ後援会

住 所 高崎市八幡町800-24
TEL&FAX 027-343-1393
e-mail ccrgoto@yahoo.co.jp
HomePage <http://www.g-kenshoku.jp/goto/>